

118号

しんち

広報

12月1日現在
()内は前月比

家	1,994世帯 (-3)
男	4,379人 (-1)
女	4,523人 (+1)
合計	8,902人 (±0)

56 / 1



鶏鳴一新

躍動する新地町

新年あけまして おめでとうございます。
 冷夏がもたらした農作物の被害、さらには追いつちをかけるかのような暮れの暴風雪高潮水害——暴風雪高潮水害は大きなツメ跡を残したまま年を越す結果となり、多事多難な八十年代の発端となりました。

明けて昭和五十六年、町では昭和六十五年を目標とした基本構想を昨年十二月に策定、今年から基本構想によって、今日を住みよく、明日に希望をもてる町。を目指して町政をすすめていきます。

しかし、依然厳しい情勢が予想されており、町政施行十年目の今年を契機としてさらに、躍動する新地町の発達の年としたいものです。

そして、町民の皆様には、木枯らしをつけて元気に走る子供達のように、この一年、健康で明るい年でありますようお願いいたします。

【写真】木枯しをつけて元気に走る駒ヶ嶺保育所の子供たち】



▲工事の始まった救農土木事業

救農土木、種モミ購入補助など

冷害対策に

1億938万円

◇種モミ購入代を補助
被害農家が種子更新のために農協から購入する種モミ代について、町と県で四分の三を補助することになりました。

◇穂いもち病防除費を補助
冷害による穂いもち病発生を防ぐために共同防除を行った農家購入代について、町と県で三分の二を補助することにしました。

◇桑の肥料購入代を補助
冷害を受けた桑の回復をはかるため、共同で購入した肥料代について、町と県で三分の二を補助することになりました。

◇ももせん孔細菌病防除費を補助
冷害によって発生したももせん孔細菌病を防ぐため行った防除の農薬購入代について、町と県で三分の二を補助することになりました。

●これらの補助の補助率は、県との関係で変更になる場合があります。

昨年の冷害による農作物の被害総額は、県全体で六百六十二億円、町内でも九億九千二百三十四万円に達し、戦後最大の被害となりました。

なかでも水稲の被害は、町に割り当てられた限度数量四万四千八百九十一俵に対し、出荷量が二万九千二百四十二俵と、一万五千六百四十九俵が出荷できなかったという結果になりました。

こうした被害に対して、町では昨年十一月の臨時議会、定例議会の中で、種モミ購入補助、救農土木事業など冷害対策に一億九千三百二十八万円を補正して救済にあたることに、被害農家の町民税、国民健康保険税の減免を行うことを決めました。

冷害対策の具体的な内容は次のとおりです。

代を補助

冷害を受けた桑の回復をはかるため、共同で購入した肥料代について、町と県で三分の二を補助することになりました。

冷害によって発生したももせん孔細菌病を防ぐため行った防除の農薬購入代について、町と県で三分の二を補助することになりました。

●これらの補助の補助率は、県との関係で変更になる場合があります。

土木事業で

収入源を確保

被害を受けた農家の収入源を確保するために、農家の方々に雇用する救農土木事業を実施することになりました。

救農土木事業の概要は左表のとおりですが、この事業で延べ七百八十八人、県が町内で行う救農土木事業を含めると、延べ二千、百九十五人が雇用されます。

町民税の減免割合

合計所得金額	減免の割合(農業所得の所得割について)
百二十万円以下	全部
百二十万円超	八割
二百二十万円超	六割
三百万円超	四割
四百万円以上	二割

55年度救農土木事業概要

事業名	事業内容
道路補修	新地、福田、駒ヶ嶺地区の農道4路線延長3186mの道路補修
林道飯種赤桑線補修	林道飯種赤桑線、飯種地内延長350mの道路補修
保安林改良	福田一ツ滝地内補植1.23ha駒ヶ嶺白子下地内つる切、除伐7.8ha、新地飯種地内補植0.56ha
林道安定施設	真弓原地内町探石場進入道路の擁壁工事
流民駒ヶ嶺停車場線舗装工事	駒ヶ嶺駅から町道菅谷今神線に通じる道路延長540mの舗装
木戸内線舗装工事	高田木戸内地内、町道菅谷今神線から町道南菅谷新町線に通じる道路延長284mの舗装
県道赤桑中島線改良工事	杉目地内県道赤桑中島線延長200mの改良工事
農村総合整備モデル事業道水路工事	大山田地内、大山田真弓線延長809mの舗装、小川地内小川赤桑線延長325mの改良舗装、大戸浜排水路延長336m改良、新町1号排水路延長100m改良
小川北原線改良舗装工事	新地保育所南の小川北原線延長93mの道路改良及び延長191mの舗装
高校入口釣師線舗装工事	下小川地内高校入口釣師線改良部分延長240mの舗装
中里磯山線排水路工事	木崎地内延長175mの排水路工事
福田中山線改良舗装工事	福田新地地内福田中山線延長220mの道路改良及び延長140mの舗装



輝かしい新春を迎え、謹んでご祝詞を申し上げます。

町民の信託に応える議会

議長 戸喜代治

地方の時代といわれる八十年代も二年目を迎え、魅力ある地方の育成が叫ばれております。

このときとなり、本町では五十六年を起点とした十年間の振興計画が策定されました。この計画では、高度化する社会に対応し、経済的豊かさをのぞくだけでなく、人間尊重と自然環境の保全を課題としてとらえ、有利な地理的条件

を活用して、農工調和の発展を期して努力するといふものであります。

これに対処するためには、相馬港背後地の開発、新地北工業団地等に対する工場立地を積極的方針でもって対処し、適切な産業基盤の整備を図らなければなりません。同時に、道路、宅地造成と住宅、下水道、公園など日常生活に直結する生活環境施設を整備し、町民の福祉向上を図る諸施策を積極的に推進しなければならぬと存じます。

これからの地方自治体は、名実

ともに豊かな地域社会の建設にとりくみ、八十年代を誇りうるよう確かな時代にする努力に努めなければならぬと存じます。議決機関たるわれわれ新町議会といたしまして、本年もまた終始公正に九千町民の信託に応え、町政の諸問題を慎重に審議し、町民各位の二期待にそなう努力する決意であります。

町政に対するみなさんのよりいっそうのご理解、ご協力を賜りますようお願いいたしまして、新年のあいさついたします。



- 外職員一同
- 公民館長 西方 市郎
 - 新地 荒 織
 - 事務局長 鈴木 義昭
 - 議事局長 横尾 富男
 - 課長 富男
 - 農委委員 鈴木 義昭
 - 建設課長 田村 利夫
 - 課長 荒 正芳
 - 目黒美津英
 - 加藤 邦昭
 - 鈴木 一夫
 - 和英
 - 加藤 智記
 - 佐藤 洋一
 - 三國 孝之
 - 目黒 和夫
 - 加藤 邦昭
 - 鈴木 一夫
 - 正芳
 - 義昭
 - 利夫
 - 和英
 - 智記
 - 洋一
 - 孝之
 - 和夫
 - 邦昭
 - 一夫
 - 正芳
 - 義昭
 - 利夫
 - 和英

明日に希望のもてる町づくりを

町長 橋本 正一

町民のみならず、明けましておめでとございます。

昨年は冷害に加え、暴風雪高潮の被害という思いがけない災害のうちにも暮れ、農家のみなさんはもちろん、各方面にわたって大きな痛手をうけました。町といたしましては、町議会と一体となり、農

業経営の維持振興をはかるための諸施策をはじめ救農事業の実施、町税国保税の減免、高額療養費の貸付などの対策をすめております。

災害の痛手は、今年も種々の面でなお大きく影響いたしますので、町民の皆様にご不安なよう最善をつくす方針でございます。

激しく変動する国際情勢の影響は、国内の経済や社会面に直ちに反映し、まさに激動の時代であり、将来の予測はきわめてむずかしい情勢にありますが、こうしたときこそ、明るい明日をめざして住みよい郷土をつくるのが地方自治体の使命でありますので、このた

と、十年後の昭和六十五年を目標とした第二次新地町振興計画基本構想をつくりました。十年間の主要課題として、相馬地域開発計画の推進がありますが、これは、電源地帯工業団地、という国の新しい計画で、火力発電所を中心とした工業開発計画であり、これの実現にあたっては、関係地権者各位の特段の御理解と御協力をほしめ、全町民各位のご協力を切にお願いたします。

この相馬地域開発計画の推進とともに、農漁業の振興をはじめ、既存企業の育成、さらに心の豊かさを培うための教育文化面の充実を十分留意し、農工調和、情操豊かな町をめざし、いと存じます。

今年も冷害対策の諸事業をはじめ、広域簡易水道事業(昨年九月で給水戸数二千八百八十一戸、普及率六十%)、農村総合整備モデル事業、は場整備団体営土地改良、

地域農政特別対策事業、町民グラウンド(野球場)整備、勤労青少年ホームの建設などが主な事業ですが、生活環境の改善をはかるためのゴミ処理対策、道路整備、また、町政の現況を御理解いただくための町内施設めぐりや町政懇談会などについても積極的にすすめてまいります。

御承知のように、厳しい財政事情のため、新規事業、施設等の実現は大変困難であります。計画の達成に全力をあげる所存でございます。

生活の豊かさや、住みよい生活環境とともに、心の豊かさを築くことに配慮し、明日に希望をもてる町づくりをめざしてまいりますので、町政伸展のためには、ご協力を賜りますようお願いいたします。多幸の年であることをお祈りいたしまして、新年のごあいさついたします。

謹賀新年

町政推進のため、日頃何かと御尽力を賜わり厚く御礼申し上げます。

本年も厳しい情勢が予想されますが、「明るく住みよい町づくり」のため一層の努力を傾注してまいりますので、特段の御指導と御支援を心からお願い申し上げます。

昭和五十六年 元旦



▲昨年4月に開館した駒ヶ嶺公民館

こんな事業をやりました 54年度の主な建設事業

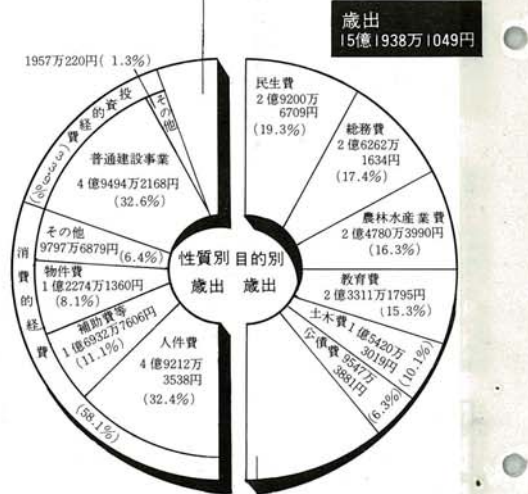
●福田保育所の建設……7797万592円 ●駒ヶ嶺公民館の建設……1億1665万5425円 ●町道の整備(改良—中里磯山線木崎地内延長560m 高校入口釣師線小川地内延長572m 町裏線新地町地内延長268m 狼沢沢人線北狼沢地内延長437m 舗装—町裏線新地町地内延長266.5m 町裏線狼沢地内延長215m 中里上真弓線上真弓地内延長260m 高校入口釣師線釣師地内延長67.5m 今泉代替宅地道路蔵川河川改修に伴う移転者代替宅地(今泉蒲庭東地内)進入道路改良)……1億642万4229円 ●農道の整備(舗装—般農道小川から栗樹団地に通じる農道延長973m 農農道路栗樹団地より町道菅谷今神線までの道路延長1494m)……① 659万9233円 ●果道の整備(県道赤柴中島線杉目地内改良280m 舗装270m)……② 502万1000円 ●橋梁の整備(町道狼沢沢人線橋梁新設、貝塚橋改良がんたら橋手摺工事 砂子田橋塗装工事)……1454万2000円 ●農村総合整備モデル事業(集落道整備—釣師町裏線改良舗装、上ノ町町裏線改良舗装、集落排水路整備—中島排水路、釣師1、2号排水路)……4251万724円 ●釣師浜漁港の整備(護岸123.3m、橋梁、物揚場護岸123m、船揚場背後地の舗装)……③ 910万1000円 ●駒ヶ嶺湛水防除施設の建設(ポンプ、上屋、防塵機等の設置)……④ 769万4940円 ●自給飼料生産総合振興対策事業(酪農組合に対する草地造成、サイロ新設工事に伴う補助)……959万円 ●共同乾燥調整施設設置事業(へき地農山漁村振興特別対策事業(駒ヶ嶺町機械利用組合、洗米機械利用組合に対するコンバイン、共同乾燥調整施設購入設置補助)……659万4000円 ●団体営かんがい排水事業(大作地区のかんがい排水工事)……606万円 ●地籍調査事業(福田、真弓、杉目、駒ヶ嶺の一部2.9km²の測量及び53年度実施地3.45km²の認証登記)……978万円 ●新地、福田、駒ヶ嶺ポンプ車納庫新築……685万円
※①は事業主体に負担金として支払った金額です。

54年度決算報告

こう使われた

一般会計 歳出決算額 15

公債費9547万3881円(6.3%) 投資及び出資金 938万4000円(0.6%)
繰入金、積立金1011万1397円(0.7%) 貸付金 773万円(0.5%)



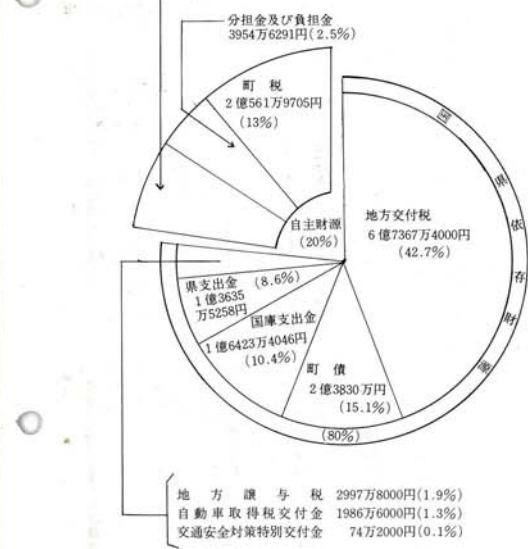
衛生費 8094万3358円(5.3%)
消防費 7366万4690円(4.8%)
議会費 4505万189円(3.0%)
労働費 1990万280円(1.3%)
商工費 1460万1504円(0.9%)



億1938万円

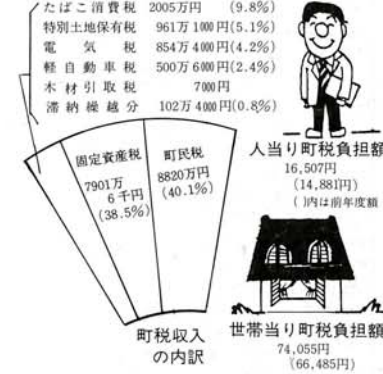
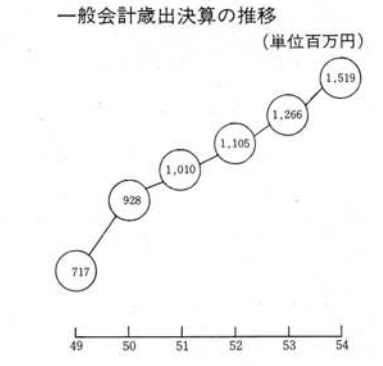
歳入 15億7768万4971円

寄付金 30万円 (0.1%)
財産収入 349万3099円 (0.2%)
繰入金 920万円 (0.6%)
使用料及び手数料 881万375円 (0.6%)
繰越金 2117万9226円 (1.3%)
諸収入 2638万6971円 (1.7%)



昭和五十四年度の一般会計、各特別会計決算が、十二月定例町議会認定された。十二月定例町議会決算は、みなさんの家庭の計算と同じようなもので、町が一年間、予算に基づいて行ってきた各事業の記録です。

今月は五十四年度の決算のあらましを紹介いたしますので、みなさんが納めた税金や国からの地方交付税などがどのくらい入り、どのように使われたかをご覧になり、八千九百町民の家計簿について考えを深めたいと思います。



昭和五十四年度の一般会計決算額は、歳入が前年度決算を二億九千万円程度上回る十五億七千七百六十八万円、歳出が十五億一千九百三十八万円となりました。

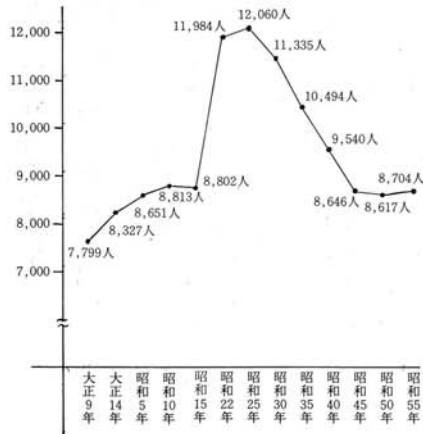
歳入で前年度に比べ二・六割と伸び率が高かった要因としては、地方交付税、国庫支出金の伸びが八割台にとどまった反面、町税、県支出金、町債の増加をあげることができました。なかでも町債は、前年度の二倍の二億三千八百三十三万円となっており、地方交付税に比べ、歳入の重要な柱となっています。しかし、町債は町が行う事業にあてるための長期の借金で、その年度以降は、長期にわたって、元金に利息をつけて返済していかなくてはならないお金です。

町債の増加は、石油ショック以来の長期経済停滞から大幅な税収減少が望めない状況が続く一方で、住民要求が多様化、増加しており、これらに対応した財源不足を町債で補うということによるもので、五十四年度末現在の町債残高は、九億四千九百九十九万七千円に達しています。

こうしたことから、町の財政を健全に維持するうえからも、町税等の自主財源の確保が急務になっているといえます。

一般会計決算の特色 急がれる 自主財源の確保

国勢調査による町内の人口推移



昭和五十五年十月一日現在で行われた国勢調査の県による人口概数がまとまり、このほど公表されました。

それによると、昭和五十五年十月一日現在の町の人口は八千七百四人で、前回の国勢調査(昭和五十年)に比べ、八十七人(一割)の増加となりました。

町の国勢調査人口は、大正九年の第一回調査以来、昭和二十五年の一万二千六十人をピークとして、その後は調査ごとに減少の傾向を示していました。しかし、今回の調査で、実に三十年ぶりに人口減少に歯止めがかかり、増加に転じました。

男女別人口では、男が四千二百八十一人、女が四千四百二十三人で、総数に占める割合では男が四九、女が五一割となっており、前回調査と同傾向を示しています。

世帯数は、千九百七十三世帯で前回より七十九世帯多くなっています。人口の八十七人増に対し、世帯数が七十九世帯も増加しているという点は、町内でも核家族の進行及び一人世帯が増加していると考えられます。

55年国勢調査人口八千七百四十四人
30年ぶりに人口増加

昭和五十五年十月一日現在で行われた国勢調査の県による人口概数...

国民健康保険 特別会計決算

医療費の節約で 四千四百万円の黒字

昭和五十四年度の国民健康保険特別会計の決算がまとまりました。五十四年度の決算で、収入合計三億五千七百八十二万六千円に對し、支出合計が三億一千三百八十二万四千円、差引き四千四百四十四万二千六百円(黒字)となりました。

これは、検診を受ける回数が増加したものの、入院件数が減少したことによるもので、被保険者一人一人の日頃の健康管理が、黒字決算にあらわれたといえます。

収入の主なもの、国庫支出金の二億一千三百七十三万九千円、

支出 3億1382万668円 収入 3億5782万6077円



収入総額の約六〇割を占めていた。また、みなさんが納めていた保険料は、一億三千四百九十九万三千円、被保険者一人当たりは二万八千二百五十円となっています。

一方、支出では保険給付費が二億九千五百八十一万七千円、全体の九四割を占め、事務費その他の経費が六割弱となっています。

病院等で支払った医療費は、被保険者一人当たりは八千七百八十八円、このうち五千六百八十八円を国保で負担しています。

財政難の水道事業

五十四年度決算額 三億八千五百六十二万円

町の水道事業は、公営事業として、独立採算制がとられています。昭和五十四年度の収支では、収入が三億八千五百六十二万五千円、支出が三億八千五百六十二万二千円、二万三千円の黒字となっています。

しかし、これは表にあらわれた黒字で、内容をよく検討すると、収入に一般会計からの補助金が二千六百三十三万五千円が含まれています。つまり、一般会計からの補助金などがなかったら、収支が逆に二千六百一十二万二千円の赤字となつてしまいます。

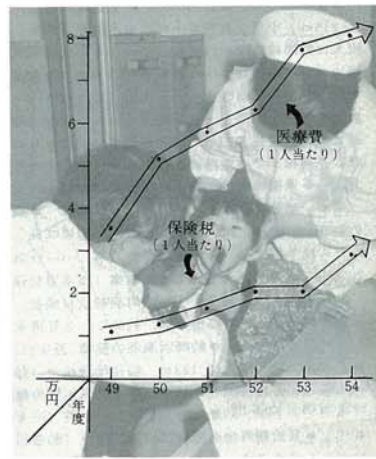
昭和五十四年度では、一、の水

(単位千円)

収入	21,751
一般会計補助金	12,000
営業雑収益	507
合計	34,258
費用	17,155
人動力費	1,611
薬品費	346
修繕費	619
その他維持管理費	3,258
減価償却費	2,058
支払利息	9,188
合計	34,235
収支差引額	23

収入	176,600
企業支出金	126,500
国庫支出金	31,625
一般会計補助金	14,035
合計	348,760
建設改良費	350,348
企業償還金	1,029
合計	351,377
収支不足額	△2,617
損益剰上留保費	2,424
利益剰上金処分額	
その他	193

医療費と保険税の推移



国民健康保険事業は、みなさんが納める保険税と、県からの補助金によって運営されています。保険税は、前年の所得(所得割額)、固定資産税(資産割額)、世帯別平均割額を基準として算出しますが、このもとになるのは、みなさんがお医者さんにかかったときの医療費です。医療費から、県の補助金などを差し引いた分を、被保険者のみなさんに保険税として負担してもらう仕組みになっています。

ですから、医療費が増えれば、そのまま保険税にはかかるとことになり、保険税も高くなります。

六十八円が赤字だったということになります。したがって、この赤字分を、一般会計からの補助金などで補っていた状態です。

こうした赤字が出た理由の一つは、水不足解消のため行っている広域簡易水道事業の事業費等の増加で、五十四年度には鴻ノ巣浄水場、第二配水池等が完成してしま

なお、この概数は、後日総理府統計局で公表する数値と異なる場合があります。

ご協力

ありがとうございました

町総ぐるみで毎年行っている愛の献血が、十一月五、六、七日の三日間、日赤血センターの献血車が来町して行われました。今年で八年目を迎えた献血には

六百人を超す申込みがあり、健康診断をパスした五百九十六人が献血しました。

今年度は、昨年七月にも浜通り地区を対象に献血を実施しており、これまで七百人を超す献血のご協力をいただいております。

現在の科学をもってしても人工製造することができない血液、私達はいつどんなことから輸血が必要になるか、健康であるときに献血を。今年十二月にも今年度最後の献血が行われます。ご協力をお願いします。

献血協力で感謝状

新地高など2団体 相馬地区の総合衛生大会が、十一月二十五日、原町市文化センターで開かれ、献血協力で原町保健所長から新地高校と新町の献血友の会に感謝状が贈られました。

また、相馬地区衛生組織連合会長長表彰もあわせて行われ、長年、保健委員として活躍してきた次のかたが表彰されました。

加藤雄雄(杉目 64歳) 佐藤 新(岡 65歳)

一年の計は元旦にあり
健康な一生は
日頃の定期検診にあり

一年の計は元旦にお済みですか。農家の皆さんでしたら、順いごとの一に豊作のことも含まれていないのではないのでしょうか。昨年は冷夏の影響で、農作物は大被害を受けましたが、今年こそはと喜んでおられる方も、さそとやうことでもやり直しができそうです。しかし、人間の健康はそのつかないことも、往々にしてあります。

町全体をみた場合に、検診を受けていないかたが病に家おれたり、献血されていない家庭で輸血を必要とすることが、しばしばあります。

検診の場合には、再度通知を出します。一日働くと何千円

になるのは、休んで来るのだから日当を等と、冗談話をされるかたがおりますが、自分自身のため、ひいては家庭のために真剣に考えましょう。預金をいくとができません。

今日では、農作業の機械化に伴い、短期間で大量の収穫ができることから同品種が作られていくようですが、昔の人は凶作に備えて、早稲、中手、奥手などを作っていたそうです。健康管理にも、この三段がまの慎重さが必要でしょう。心身ともに過労におちやうしい日常生活で

一月二十二日、午前中に献血車が来町します。

①快食
②快眠
③快便

新地町国民健康保険五十五年五月分の申身は、総件数二千二百六十九件で、第一位が循環器疾患(七十七件)、第二位が消化器疾患(五百二十四件)、第三位が呼吸器疾患(二百三十二件)となっています。

不幸にして病に侵された人については、一日も早い回復を願わずにはいられませんがいま健康な人は、今年も健康で過ごすための手段として、定期検診を受け、十分に献血検査を備えましょう。

次号では、循環器系の疾患について考えてみたいと思います。

保健婦 中塚 文子



振興計画町民アン

58%の

将来の中心産業は工業 農業と工業が一体化した 町づくりを

町の将来への中心産業の間では、年代による差が現われています。町がおかれている地理的、社会的環境から考えると、農業と工業が中心とならざるを得ないと思われ、結果で第一位が工業(六〇・四割)、二位農林漁業(二七・七割)、以下、商業(七・二割)、観光(三・六割)となっている。

工業と答え、人を年代別にみると、三十代四十代が七五・六割で一番多く、三十歳未満五七・九・二割、三十代四十代が一七・

七割、五十歳以上四七・七割となっている。このことは、三十代四十代が工業化による雇用の機会を強く求めていることを示しており、三十歳未満のかたについては、工業化を求めているものの、現状の中でもある程度雇用機会が得られることを示していると思われる。また、五十歳以上のかたについては、将来工業化が進んだとしても、年齢的に、雇用機会が得られないだろうとすることによるものと思われる。このことは、五十歳以上の女性が特に低率になっていることからもうかがわれます。農林漁業については、五十歳以上が四〇・九割、三十歳未満が一七・二割、三十代四十代が一七・

一割となっています。このことは、五十歳以上のかたについては、環境を急速に変革したくないと考え、根強いことを示し、三十歳未満、三十代四十代については、農林漁業が今後、町の基幹産業として大切であるとの考えを示したものと、いえます。

町が今後重点をおくべき施策としては、経済基盤の確立、生活環境の整備、医療福祉の充実及び教育文化の充実とバランスのとれた方向が示されています。

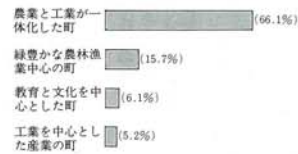
第一位だったのは「工場の誘致」で、五一割と過半数を超える要望が出され、前述の町の将来への中心産業の答えと対応したものと示されています。若い年代ほど高率を示しています。若い年代ほど高率を示しています。

これらの調査結果から、現在の農林漁業中心の商業構造から工業化への発展が強く求められ、農林漁業を基本としながらも、現状ではもっと工業開発を進めるべきだとの考えを示したものと、いえます。

町が今後重点をおくべき施策は？

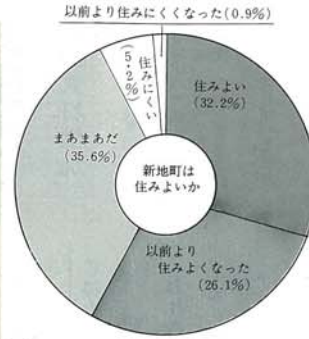


10年後の町の姿は？



ケート結果

かたが新地町は住みよ



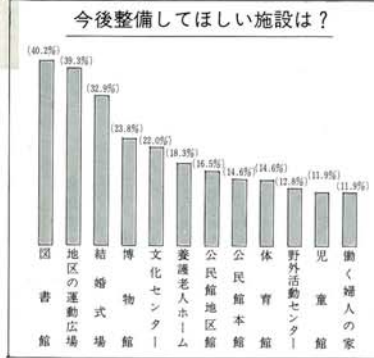
新地町は「住みよいか」「住みにくいか」では、「住みよいか」が三二・二割、「以前より住みよくなった」が二六・一割で、五八・三割のかたが住みよいかと答えています。さらに、「まあまあだ」と答えた人を加えると九三・九割にもなり、「住みにくい」「以前より住みにくくなった」とした六・一割に比較しても圧倒的な差となっており、地域の生活環境が確実に向上していることを示しているといえます。

年代別では、高年代になるほど「住みよいか」と答える率が高く、これは、年代による比較基準の差によるものと思われる。また、「住みよいか」とした人の理由をみると、「自然環境に恵まれている」「道路が整備された」「基盤整備がなされた」「生活環境が整備された」「教育文化施設が充実してきた」となっています。この結果をみると、総体的には豊かな自然環境の中での生活を大切にしたいと考える人が最も多く、こうした環境の中での道路整備、基盤整備、生活の基盤、環境整備等行政施策の効果に対する反応が現われていると考えられます。

一方、「住みにくいか」「以前より住みにくくなった」と答えた人は七件(六・一割)と回答が少なく、理由としては「働く場所が少ない」「買

整備して欲しい施設は

図書館 地区の運動広場



今後整備してほしい施設では、図書館が四〇・二割で第一位、以下、「地区の運動広場」「結婚式場」「博物館」「文化センター」「養護老人ホーム」「公民館地区館」と続いています。

男女別では、男性の一位が「地区の運動広場」で、女性では「図書館」となっています。

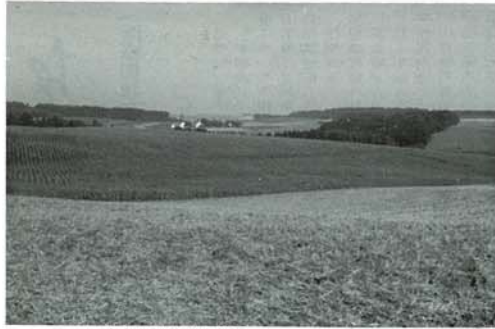
物に不便である」「が五七・二割を占め、以下「交通が不便」「教育文化施設が不備」「他人の干渉が多い」となっています。このことは、工場導入と商業振興の充実が必要であることを示しているといえます。

年代別では三十代、四十代の人が多く男女別では圧倒的に女性が多くなっています。女性が多いということは、交通手段に対する対応の差が現われたと思われる。

高い数字を示し、総体的には男女間の差はそれほどみられない結果となっています。

年代別では、個々の施設については三十歳未満、三十代四十代で一位となっているもの、五十歳以上で第四位となっているもの、三十代四十代で第一位、三十歳未満については第三位と全体的に高い数字を示しています。「結婚式場」「養護老人ホーム」「博物館」「文化センター」については、各年代にばらつきがみられます。

総体的には、「地区の運動広場」や「結婚式場」を含むものの「図書館」「博物館」「文化センター」等、文化的施設に対する希望が多いことを示しています。



▲広大な耕地が広がるミュンヘンの農場

▲広大な耕地が広がるミュンヘンの農場
ミュンヘン農場は、六十九畝の土地を生産し、飼料は自家生産で肥育豚三百二十頭、仔豚百頭、鶏種豚五十頭、それに種豚をもち、それにという一貫経営で、労働力は御主人と、実習生二人であった。

農業経営者海外派遣レポート
ヨーロッパ五カ国を視察して、最初に、山林を含む経営面積が我が国とは比較にならないほど広いのに驚き、ただ目をみはるだけであつた。しかし、大半の農家が自家生産の飼料を利用し、購入飼料は栄養剤とかほんの少しであるというので、その面積については納得ができた。
養豚経営者では、一般の農家でもそうですが、トラクター、コン

広大な経営面積
ヨーロッパ五カ国を視察して、最初に、山林を含む経営面積が我が国とは比較にならないほど広いのに驚き、ただ目をみはるだけであつた。しかし、大半の農家が自家生産の飼料を利用し、購入飼料は栄養剤とかほんの少しであるというので、その面積については納得ができた。

▲標高千五百に点在するスイスの酪農家の畜舎
給餌は自動化し、空調設備を完備しており日本で言えばモデル的な農家であるが、ドイツでは平均的な農家であるという聞いて、これまた驚いた次第である。
その他、二、三の農家を視察したが、その中には百貫購入飼料というところもあったが、それは酪農経営と視合しているためであらうと考えられる。今後の規模拡大という点においては、周囲の小規模農家で離農するものがあり、その耕地を借り上げて拡大しているという意欲がうかがわれた。
私にしては、見るもの聞くものすべてが驚きと感動の十五日間であったが、こうした体験は、私のこれからの生き方に少なからず変化をもたらすと思ふし、農業経営上様々の学ぶ点が見い出されたことは、最大の収穫であった。(片平 和正 稿)



木崎(あるいは「きのさき」といふ地名は、かなり古くからあつたようである。天文七年(一五三八)の伊達頼宗の御段銭古帳には、「きのさき」「たかくら」晶」というのがでてくる。
寛永五年(一六二八)に、新地方部は互理の伊達に増加になったが、同七年に伊達政宗から伊達安房に対して出された領知黒印状には、「らち村木崎」というのが入っている。この高倉畑(晶)村」というのは現在消えてしまったが、木崎の字寄井近くにあつたものである。
現在でも、木崎の年輩の方の中で、「昔は木崎のことを高倉といつた」といふ話があるが、この高倉畑(晶)といふのは、御段銭古帳をはじめ、天文二十二年の采地下馬路にも入つており、これからすると、かなり前から開けていたことが考えられる。

町内歴史探訪
地名ものかたり
「木崎」
ここがなぜ開けていたかは、かゝるがしく言えないが、これに接城下にある地名とされている(地名の語源)は「か」の、これとのかかわりがあると考えられる。この周辺の若松、松原、螺立などという地名については、いろいろの伝説があり、興味のある地域である。
地名学的には、サキ(崎)は先端、作田は山間の田、狭間の意、さく)の地といふのがある。なお、らち(崎)の地名については、吉田東伍は日本地名辞書の中で、頗奇異ノ名称ナリ、皇朝言語ノ例ニ良行音ノ語源ニ在ルコトナシ、其コレアルハ、漢語、蝦夷語モシクハ転訛ノ外ナム猶考フベシ」と言っている。
さて、「十三奉行」の地名について、珍らしいせいかよく尋ねられる。種々の説があるが、磯浜に「十三壇」といふのがあり、山元町誌によると、天文十七年に相馬が坂元を攻めて激戦となり、多くの戦死者が出た。この遺骸を葬り、十三奉行とその郎党と各壇に分けて合葬した。という伝説を紹介しているが、現実には、十三奉行の戦死といふのは考えられないのであるが、あるいは、この伝説のかかわりがあるのかもしれない。福田村安永風土記には、十三奉行溜池が明記されており、古い歴史をもつていふことは確かである。なお、木崎、磯山、作田は、古墳が多くあり、文献以前の歴史が秘められている。

トピックス

トピックスは、町内での話題をカメラレポートするコーナーです。みなさんのまわりにある話題を、役場企画開発課までお寄せください。



農業後継者会議がモチつきのプレゼント
町内の農業後継者で結成する農業後継者会議(会長目黒静雄 会員23名)では、12月22日、新地・駒ヶ嶺保育所を訪れ、子供たちにモチつきのプレゼントをしました。これは、何か地域のために役立ちたいと、後継者会議の年間行事の1つとして毎年行っているもので、午後からは、町民グラウンドにサクラの木20本を植えました。なお、13日には、青年会でも、福田、浜保育所でモチつきの訪問をしています



農林水産大臣から表彰、大山田の佐藤裕さん
大山田の佐藤裕さん(51歳)は、長年、農林業センサスの統計調査員として協力してきた実績が認められ、12月10日、農林水産大臣から表彰されました。



剣道昇段審査会が十二月七日、原町市の武道館で行われ、町内の剣道クラブとスポーツ少年団から参加した九名全員が昇段しました。
渡藤徳雄(三段) 小川 泉田茂 片平正昭 目黒希一 佐藤武志 目黒義也 佐々木弘明 鈴木孝信(三勝初) 初段(尚美中二年)

国の進学ローン

申し込みは一月から

国民金融公庫では、国の進学ローンをとして、進学に必要な資金の融資を行っています。
△利用できるか△
次のような教育施設に進学されるかたの父母、または進学される本人(勤労学生などに限る)で年収が五百三十万円以内の所得者(年収が五百三十万円以内の所得者)は、高等専修学校、高等専門学校、短大、大学、大学院
②専修学校 養護学校の高等部
③専修学校(修了年限が高等課程で三年以上、専門課程で二年以上)
④農業者大学校、水産大学校、海技大学校、航空大学校、職業訓練(短期)大学校
△融資対象△
一世帯当たり五十万円以内
△融資対象△
入学金、授業料、施設設備費などの学校納付金、受験料、交通費、宿泊料などの受験費用、その他教科書代など。
△融資期間△
進学する学校の在学期間内、ただし四年以内
△利率△
国民金融公庫の基準金利と同率(昭和五十五年十月現在、年九・一四%)
▽返済方法△

乗車券の購入は 新地駅で

国鉄は構造的欠損により大幅な赤字が続く、さきの臨時国会で国鉄再建法が可決、国鉄の経営を建て直すための方策として、三十五万人体制(人員の合理化)と収入の確保を達成すべく、日夜懸命の努力を払っております。
新地駅の収入は、旅客予定収入(局外当り)七千五百万円に対して、今年度四月から十月まで三百万円程度の減収となっており、今年度は五百万円位の減収が予定されています。
乗車券は、地元新地駅で往復乗車券、特急券、急行券をお買い求めください。また、指定乗車券等は一か月前から発売しております。
この二、ご利用ください。通勤、通学生のみならず、ぜひ新地駅で定期券をお買い求めください。また、団体旅行のこでもできる限りご相談に応じますので、二一報ください。
新地駅

お知らせ



町長日誌 梅年二

「医療相談コーナー」を

ご利用ください

県では、県庁内の県政相談室に「医療相談コーナー」を設け、医療についての相談に応じています。お気軽にご利用ください。

▽相談場所 県庁本庁舎二階 県政相談室

▽相談時間 月曜日～金曜日・午前九時から午後四時まで、土曜日・午前九時から十二時まで

▽相談内容

- ①診療内容の情報に関するもの
 - ②投薬検査の情報に関するもの
 - ③医療機関のサービスに関するもの
 - ④医療費に関するもの
 - ⑤医療機関の紹介に関するもの
 - ⑥医事関係法令に関するもの
- ▽相談員 相談には医務課、薬務課、公衆衛生課、保険課、社会福祉課の県庁職員があたります。

▽相談方法 県政相談室での直接相談、または手紙、ハガキ等の文書によることを原則としますが、電話(〇二四五―二二一四五四六)による相談も受け付けます。

転職訓練生募集

県立相馬職業訓練校では、五十六年度の転職訓練生を募集しています。

◇募集科名及び定員
縫製科(二十名)、建築科(十名)、木工科(十名)

◇応募手続

入校願書を添え、公共職業安定所又は訓練校に申し込んでください。用紙は公共職業安定所、訓練校に用意してあります。

◇面接選考期限及び場所

三月十日 午前十時 相馬公共職業安定所
くわしくは、訓練校か職業安定所へお問い合わせください。



11月届出

▷出生(届出は14日以内に)
おめでとうございます。

和賢	美史	斉藤	幹雄	杉目
すみれ	友紀	菅野	裕充	新地
絵美	久美	鈴木	秀吉	戸谷
繁学	紀	渡部	道長	菅高
		竹沢	長繁	高田
		森島	文夫	民崎

▷死亡(届出は7日以内に)
おくやみ申しあげます。

門馬	広子	52	崎田
布施	テヲ	47	木作
加藤	重雄	79	岡新
寺島	ヒロ	72	地内
大宮	久	63	上ノ
川部	章治	31	

歌壇俳壇

久々に逢いたる叔母に幼なき日
別れし母のおもかげを見る
寺島ユキ子

まだ動く事故死の甥の腕時計
秒針見つ姉は涙す
横田八重子

装ひし吾娘のうなじの大人びて
ワインカラーの清らにまぶし
荒洋子

小春日の白きカラーのくるい咲く
かたへに一つ雪虫の飛ぶ
三宅みさの

五十鈴川の清き流れに身を潔め
幸を祈りぬ伊勢参りにて
小山田つや

ペタル踏み鹿狼おろしのつめたくて
孫かばいつつ保育所へ向ふ
荒よしの

戦死せし吾子をかなしむ老い母は
臥所にありて我らを待ちぬ
小野 義男

疾く眠らむ 眠らば外の風も
うましき楽の音とはならむか
目黒美津英

旅終へし旅行靴のポケットに
印度ソケイの赤き押花
伊藤 時子

姉も老ゆ吾も老いたり銀杏散る
道を語りつ帰りゆきたり
広川みさ子

喪の文の多き師走は孫は守る
日々の吾が身の幸せ思ふ
目黒ます代

風とともに散りくる枯葉に打たれて
幼のごとく心爽立つ
三宅 康

時古りて友懐しき茅の牧
思い出づれば遠き道のり
岡元 三郎

鹿狼嶺はしぐるる雲にかくれをり
漁網くり急ぐ朝の風間に
佐藤 一汀

栗林すかして見ゆる山並は
吹雪で昏れぬ昨日も今日も
水戸 幸作

門口を入るたび見上ぐ花やつで
重く下がりて冬の陽を浴ぶ
小松 永子

風も無くも音も無くわれ一人
師走の夜はしんとふけゆく
片平 とし

年毎に日脚の早さ思いつつ
冬至カボチャを姑とつくりぬ
荒 たまじ

我が子を見つめる嫁のまなざしが
母ともなれば生々として
八島フミ子

共済金心細しや年の暮
夜勤終うみちのくの星の凍て初めぬ
小幡 白帆

霜凍てし耕土を低く貨車行けり
白鳥の歩み氷上すべりつつ
齊藤 清子

辻 うらら
代光 富峰

歌壇俳壇に 投稿をどうぞ

歌壇、俳壇に投稿をお待ちします。一首、一句に住所氏名を明記し、毎月十日まで役場企画開発課までお寄せください。